

青丘文庫研究会 月報

No.293

2018年11月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町 3-1-1 (公財)神戸学生青年センター内
 TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
 ①在日朝鮮人運動史研究会関西支部 (代表・飛田雄一)
 ②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
 郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000 円
 ※ 他に、青丘文庫に寄付する図書購入費として 2000 円/年をお願いします。

<巻頭エッセイ>

遂に独島上陸敢行一四度目の正直為る!

坂本悠一

今回の事件の発端は、韓国大邱の啓明大学校国境研究所の主催する国際学術大会にゲストスピーカーとして招請されたことによる。最近は学術情報も海外へと拡散し、私が 2016 年の『(立命館大学)社会システム研究』第 32 号に掲載した論文を閲覧した李盛煥教授が強く推薦してくださったようだ。個人的には、この論文で結論を出したので、もう既に決着した課題であった。しかし、せっかく韓国まで行くのであれば、まだ海の荒れないこの季節が現場踏査の好機だと思えた。しかし折悪しくの台風のため関西空港の国際便は運休している。予約した 9 月 10 日の ASIANA 航空便も欠航との通知を受けた。そこで思案した挙句、初めて中部国際空港を利用することにした。しかし、仁川への直行便は早朝にはなく、止む無く長崎空港までを全日空便、仁川空港までを AIRSEOUL 便という変則的な経路で、時間的にも費用的にも高かった。

9 月 9 日に開かれた青丘文庫研究会の何時もの懇親会終了後、JR 新大阪駅から新幹線に乗り名古屋駅で名鉄常滑線に乗り換え、割とスムーズに終点中部空港駅に着いたが既に深夜 23 時で、予約しスーツケースも送っていた東横インにチェックインした。翌 10 日早朝の ANA 371 便で、これもまた初めてとなる長崎空港(旧海軍大村飛行場)に飛び、約 2 時間の待ち時間に遅めの Morning Coffee を飲んだり、土産物を買ったりした。小さな地方空港での出国手続きは簡単だが、AIRSEOUL RS721 便で昼過ぎに到着した仁川国際空港の混雑ぶりはいつものことながら驚かされる。しかも平昌五輪会期中には運行していた仁川～江陵間の直通 KTX は運休しており、ソウル駅での乗り換えとなる。駅中で遅めの昼食を採り、江陵行 KTX に初めて乗車、これで Korail 全線完乗のレコードを何とかキープした。江陵では市内ではなく鬱陵

島行き旅客船ターミナルになるだけ近い Resort Hotel に泊まることにした。窮屈な日程なので翌朝出航の船に乗り遅れることは何としても避けたい。朝食付き W10 万の出費は Card 払いで致し方ない。

しかし翌 11 日午前出航予定の船は高波のため午後順延となり、ターミナルで報告予定の原稿を点検したりして待機した。ここで白人らしきカップに声を掛け国籍を尋ねると、'United Kingdom'のこと、やはり目的地は独島だ。午後になりやや波も収まったのかいよいよ出航となり、김밥(海苔巻)と맥주(麦酒)を持ち込み指定席に着く。しかし間もなくして波はどんどんと高くなり、女性の甲高い悲鳴が聞こえ、Tbilet に行くにも手摺なしには歩けない。昼食だった筈の김밥と맥주もごみ箱の藻屑と化し、嘔吐感は夜になっても収まらない。鬱陵島の到着港はメインの道洞港ではなく新しい芋洞港で、お目当て의울릉관광여행사(鬱陵観光旅行者)のある道洞までは Taxi で W2000 掛かった。しかし 4 年前の記憶とは、建物の場所も사장님もすっかり違っていた。独島往復の乗船券はソウルのアリラン観光旅行社で手配済みなので、後は 11-12 日 2 泊の宿と大邱に近い浦項港までの帰路乗船券の確保を依頼する。幸いなことに会社と同じビルの中に格安の Motel があり、2 泊 W10 万を前払いする。食欲がないので近くの薬局で胃腸薬を貰い服用するが、外食は諦め Convenience Store で新発売の Kroud Berr と cheese+mini-tomato で夕食を済ます。

翌 12 日はいよいよ独島行であるが、芋洞港を午後に出航するので、平日の午前中役所の開庁時間に主なターゲットを直撃した。まずは最初に独島を目指した 2012 年にも訪れた 울릉군청(鬱陵郡庁)で、最新の"군정주요기봉통계(郡政重要基本統計)"をゲットすることである。しかしまず最初に訪問した Information

Counter が良くなかった。名刺と論文の韓国語 Abstract を手渡しして懇願するも、「もう残部は無い」との一点張り。仕方なく庁舎の建物の案内表記を注視して回ること数分、총무과(総務課)との表示を見つけ、先ほどと同じ要領で依頼すると難なくお目当ての "2018 군정주요기봉통계" を貰うことができた。要は語学力よりも度胸だった。そこで、気を良くして 독도관리사무소(独島管理事務所)を尋ねたが、観光パンフ的な小冊子しかない。しかし論文の Abstract を一読した係員はなかなかの機嫌で、「今日午後の観光船は問題なく出ます。気を付けて行ってらっしゃい」と、茶菓の持て成しも受けた。軽めの昼食を採り船酔い止め薬も飲んで、リュック一つの軽装で Taxi に乗り込み芋洞港に向かう。昨日にも着いた同じ埠頭だが、雰囲気はもう独島気分だ。100 人以上の韓国人老若男女が手に手に 태극기(太極旗)を持ちながら、さらに港の売店では独島 Goods を買い込んでいる。すると '독도논데 대한민국의 고유영토입니다(独島は大韓民国の固有領土です・下線部赤色)との横書きのペナントが W3000 だったので、それをゲットしすぐさまリュックの中に隠すように滑り止め込ませた。この日海は平穏で行楽日和、船内の大型スクリーンには 3D で独島の画像と '독도는 우리 땅(独島は我が土地)というアップテンポの歌曲が流される。航行すること約 90 分、遂に夢にまで見た東西両島からなる Liancourt Rocks が視界に入ってきた。私の場合前科があるので、人目に付くカメラやさっきのペナントなどは見せられないので、スマホのカメラ機能だけで対処する。できるだけ平静を装いながら、歓喜する韓国人たちや海洋警察を撮影する。上陸した韓国人たちは 태극기 だけでなく皆が警察隊員たちにプレゼントしている。公然贈収賄ではないかと感じつつ、それらがケーブルで隊員宿舎のあるであろう山頂方面に吊り上げられている。ある隊員に「宿舎は何处?」と尋ねても「軍事機密」との答え、なるほど山頂への登り口には自動小銃を構えた屈強な隊員が立哨している。「民族の島」がまさに「愛国の島」と化すことおよそ 20 分で船は汽笛を鳴らして乗船を促す。六年越しの上陸期待も僅か 20 分でやや物足りない感じだが、兎にも角にも一つの目的を果たした。あとはこの臨場感を大邱の報告でどう表現するかだ。帰路はそれを考えながら暫し転寝をしてしまった。夕食は新鮮な刺身と麦酒に加えて自宅でも愛飲している 백새주(百歳酒)で一人祝杯を挙げながら、乗船券の手配をしてくれたアリラン観光旅行社の金社長と大阪の JU 観光の尾川さんにお礼を伝えた。

開けて 13 日、当初の芋洞港～浦項港の出発時刻が午前から午後に変更となり、沙道港から出るやや小型の船

便の方が早く到着するという情報を得る。それでも午前中はほぼフリースタイルとなるので、個人 Taxi を手配して W15 万で鬱陵島西半部の周遊を依頼した。島の人口は 2012 年には 1 万人超だったものが、今年は既にその大台を割っている。島には高校までしかなく、また空港もない。琉球方言で謂うところの「島チャビ」で、実際眼鏡のフレームのネジが外れたので、一軒しかない眼鏡屋に行ったが人気は無く、「今日は陸地に行っている」と言う。漁業の他には観光が頼りだが、その客の約三分の一が独島を目指すとの統計が、昨日手に入れた統計書に記載されていた。西半部を約 3 時間掛けて急ぎ足で回ったが、新しい歴史博物館を始め各種の一部有料観光施設も整備されていた。目的地沙道港で Taxi 料金 W15 万を Card で払おうとしたが、端末のエラーで駄目、止む無く Cash で払うと運転手は手書きの領収書を出してくれた。船は定刻に出航したが、それでも夕刻に大邱の Hotel で始まる歓迎 Reception には間に合いそうにない。李盛煥教授にその旨の断りの電話を入れるが、若そうで日本語の達者な女性の声で了解との返事であった。浦項からは何時もの如く Korail に乗る積りであったが、港には客待ちの Taxi が屯して客引きのバーゲンセールをしている。「大邱まで W7 万～W8 万」とか大声で競争の最中、誘惑に負けてつい W7 万との運転手の車に乗り込む。しかし車内で CarNavi を確認すると目的地の AW-Hotel は郊外にあり、何とか W8 万にしてくれと懇願されるので了解して発車した。途中高速道路も利用してスピード違反かと思われるほど飛ばしたが、大邱市内に入ると夕方の退勤時間に重なり大渋滞、結局 Meter は W12 万を超えて高速料金も込みで W8 万は可哀そう過ぎるのでつい仏心からジャスト W10 万を Cash で支払った。しかし Reception とは名ばかりで私を含めて僅か 5 名、客人はみな Rusia のサハリンからであったのでロシア語で簡単な挨拶を交わした。しかし少なくとも一人は朝鮮民族系らしく皆の共通語は朝鮮語であった。長旅になったので Hotel に Massage を頼もうとしたが、直ぐ前にタイ式 Massage 店があったので、1 時間 W5 万 w で頼みついうとうとしてしまった。

翌 14 日は愈々本番のシンポジウム当日であるが、熟睡してしまったのか Morning Call も聞こえず、朝食抜きで会場の啓明大に向かった。幸い Program を見ると、私の発表は最後の西なので、Instant Coffee と Cookie で午前の報告を拝聴した。その際予稿集を開いて驚いたのは、日本からのもう一人のゲストスピーカーである森本参議院議員(国民民主党)の頁には、個人見解かどうかはともかく、件の「固有の領土」の文字が乱舞しているのではないかと。しかし彼は当日「公務多忙」のため参席せず、

同胞間の醜い論争はお預けとなったのは不幸中の幸いであつた。彼の欠席によりシンポはほぼ予定通りに進行し、最後に私の出番となった。やおら兼ねてから準備していた例의'독도는대한민국의고유영토입니다'のペナントを鮮やかに簞返して、歴史的な画期を地図で示しながら、その理論的難点に集中して論じた。予想していた通り討論者の質問は私に集中したが、優秀な学生の通訳により説得的に説明する機会を得られる結果となった。印象的だったのは、自慢話になるがあえて紹介すると、ある高校の中年女性教師の感想で、「私達も固有領土教育の見直しをしたい」とはっきり意見表明されたのには、少し胸にジンと来たところではあつた。会場をHotelに移しての夜の歓送会は盛大であり、大邱の嶺南大の既知の研究者も参加して祝杯を重ねたが、喜びのためか悪酔いはしなかった。

最終日はHotelの豪華なViking Braekfastで、偶々前夜遅くまで話込んだ北京の劉清華大教授と一緒に、訪中のお誘いも受けて握手して別れを惜しんだ。TaxiでKorail 東大邱に向かい、釜山行の무궁화(無窮花)号に久

し振りに乗車、約90分の列車の旅となった。到着したKorail 釜山駅が一段と改装されていたのも然ることながら、釜山港国際Terminalがまるで全面移転したかのような新装オープン振りで、浦島太郎的感慨に一頻り浸ったのであつた。ただ定刻に出航したJR九州高速船Beetleだが、間もなくして「右エンジン故障のため一旦引き返します」との突然のアナウンス、当日の帰宅が危ぶまれたが、「部品交換異常なし」とのことで約20分遅れで博多港に到着した。そしてかつては顔馴染みになるほど通い詰めた入管カウンターも、新顔の「お帰りのさい」との久しぶりの綺麗な日本語に感心しながら、TaxiでJR九州博多駅から一路京都の家路へと、無事に7泊8日の長旅を終えたのであつた。最後に9月から啓明大に就職された安田昌史さんからの多くのご援助にお礼を申し上げる。

なお、2016年拙論は以下のHPからダウンロードできます。

<http://www.ritsime.ac.jp/acd/re/ssrc/result/memoirsh/html>

<『在日朝鮮人史研究』第48号、緑蔭書房、2400円＋税、2018.10.31発行>

(2592円のところ2000円＋送料180円でお分けします。希望者は、2180円を郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>にご送金ください。)

- *治安維持法による在日朝鮮人弾圧・被検挙者・被基礎者の民族比率の推定 水野直樹
- *朝鮮民族にとっての一九三八年・新協劇団「春香伝」外村大
- *韓国人シベリア抑留体験者李厚寧氏の聞き取り 北原道子
- *解放後在日朝鮮人の民族教育への教育費獲得運動(一九四七年～一九四九年)納税義務との結び付きを中心に 姜晶薫
- *在日コリアン女性とチェサ(祭祀) 李裕淑
- *書評『在日朝鮮人の「帰国」政策一九四五年～一九四六年』鈴木久美著二〇一七年緑蔭書房 落合博男

<飛田雄一『再論 朝鮮人強制連行』(2018.11、三一書房、2000円＋税)>

(購入希望者は飛田まで連絡ください。送料とも2000円です。郵便振替同封で送ります。)

- 第1部 講演録● 歴史を刻む——神戸の外国人／強制連行真相究明運動の展望
- 第2部 神戸港平和の碑● 〈神戸港平和の碑〉の建立と朝鮮人・中国人・連合国軍捕虜の強制労働／〈神戸港平和の碑〉に込められた思い——アジア・太平洋戦争と朝鮮人・中国人・連合国軍捕虜
- 第3部 論考● 真の国際的共生への道——戦後責任を果たすために今なすべきこと／兵庫の在日朝鮮人史研究を再スタートさせましょう／「朝鮮人強制連行実数カウントプロジェクト」の提案／韓国強制動員真相究明法、その後／再論・一九四六年強制連行「厚生省名簿」
- 第4部 交流集会他● 「11・11 戦争責任を考える集いinマツシロ」に参加して／神戸大学農場に朝鮮人強制連行跡地を訪ねて——兵庫県加西市・鶴野飛行場／訪問記「北海道開拓記念館・防衛研究所図書館」／第五回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会に参加して／朝鮮人強制連行 神岡・高山フィールドワーク／篠山に在日朝鮮人の足跡を訪ねる／第七回強制動員真相究明全国研究集会——「強制動員問題解決への道」&京都フィールドワーク／強制動員真相究明ネットワーク・宇部集会&長生炭鉱フィールドワーク／戦後六四年後の奇跡のような朝鮮人死亡者名判明——筑豊朝鮮人強制連行フィールドワークより／名古屋強制動員真相究明集会&フィールドワーク／第一〇回強制動員真相究明全国研究集会——松本／三月の沖繩は、あつかった！ 第一回強制動員真相究明全国研究集会など／「明治産業革命遺産」と強制労働——長崎集会

●青丘文庫研究会のご案内●

■第396回在日朝鮮人史運動史研究会関西部会

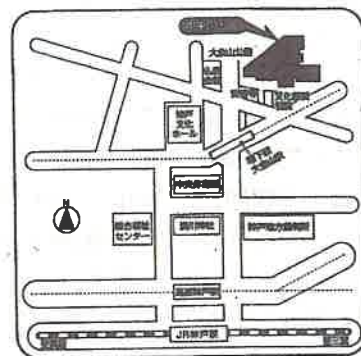
2018年11月11日(日) 午後2時～5時

1)「吉本興業と韓流スター」 高祐二

2) ①「不法占拠バラックの2世代目への継承—宇治市ウトロ集落を事例に—」 全ウンフィ、②「ウトロ・新住宅調査から」 斎藤正樹

■朝鮮近現代史研究会(休み)

※会場 青丘文庫(神戸市立中央図書館内、TEL 078-371-3351、新館3階で身分を証明するものだして入館証を受け取り4階会議室にお越しください。)



【今後の研究会の予定】

12月9日(日) 在日(廣瀬陽一、飛田雄一)、近現代史(休み)

<2019年>

1月13日(日) 在日(佐野通夫)、近現代史(玄善允)

2月10日(日) 在日(キムソニア、李裕淑)、近現代史(休み)

3月10日(日) 在日(樋口大祐)、近現代史(盧相永)

4月14日(日) 神戸映画資料館で上映会等

※発表希望者は飛田または水野まで連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】12月号以降の原稿です。締め切りは20日です。西村寿美子、玄善允、堀内稔、足立龍枝、石川亮太、鈴木常勝、梶居佳広、高野昭雄、李裕淑、砂上昌一、藤川正夫、張允植、松下佳弘、三宅洋介、金早雪、高希麗、伊地知紀子、川那辺康一、廣瀬陽一、高正子、斎藤正樹、土井浩嗣、上田文夫、中川慎二、塚崎昌之、宇野田尚哉、姜健榮、佐野通夫、三宅美千代、全淑美、太田修、藤永壮、水野直樹、河かおる、本岡拓哉、梁千賀子、山根俊郎、川瀬俊治、小野容照、樋口大祐、梶居佳広、高木伸夫、長志珠絵、藤井幸之助、黒川伊織、吉川絢子、李月順、高祐二、李景珉、青野正明、呉仁済、勝村誠、松田利彦、飛田雄一(思いつくままにリストアップしました。前倒しで原稿を書いてくださってもOKです。)

■天皇制を考える市民講座

<http://ksyc.jp/mukuge/20181123nakata-kouennka.pdf>

「明治産業革命遺産」と強制労働——「明治150年」賛美反対——

日時：2018年11月23日(金・休)午後2時/会場：神戸学生青年センター

講師：中田 光信さん(強制動員真相究明ネットワーク 事務局長)

■「仲原良二さんを偲ぶ会」

<http://ksyc.jp/mukuge/nakaharasann-sinobukai.pdf>

日時 11月24日(土) 午後2時～5時/場所 神戸学生青年センター

会費 3,000円(追悼集、偲ぶ会飲食費、諸経費含む)/偲ぶ会のお問い合わせ 飛田雄一(神戸学生青年センター)、hida@ksyc.jp

■李方子没後30年特別企画・田月仙(企画・主演)

<http://eplus.jp/sys/T1U14P002272191P0050001/> 創作オペラ ザ・ラストクィーン

2019年3月10日(日) 1) 14時、2) 17時/ 大阪 ドーンセンターホール